



道医労連mailニュース



〒060-0909 札幌市東区北9条東1丁目労働センター1F ☎011-721-6178 📠011-723-0791 2025/9/30

第61回道医労連定期大会を開催しました！



みんなで大幅増員と処遇改善を勝ち取ろう！

北海道医労連は9月6日～7日の2日間、第61回定期大会を札幌市内で開催しました。

大会には18組合から代議員55名、顧問・役員等合わせて31名が参加し、「すべての加盟組織・組合員が大幅増員と、処遇改善を勝ち取り、組織強化・拡大に取り組むため意思統一と実践をすすめる」2025年度運動方針を決定しました。

黒岩副委員長が開会の挨拶をし、冒頭挨拶で濱谷委員長から、「家族が病院で最期を迎えることとなったが、スタッフは献身的に支えてくれていた。一方で現場は人手が不足で大変なことになっている実態も見えた。やはり報酬改定は必須であり、労働組合で一丸となって声を上げよう」と述べました。

来賓として、日本医労連の佐々木委員長、道労連の宮澤副議長から連帯の挨拶をいただきました。

第1号議案の提案を坂本書記長から、第2号議案の提案を千葉書記次長からそれぞれ提案し、私たちを取り巻く情勢や2024年度の活動の振り返りを踏まえながら、2025年度の運動方針と予算案が提案されました。討論では11組織20名が発言しました。

1日目の休会後には、会場の最寄り駅である北24条駅の北口・南口に分かれて「夜勤規制と大幅増員で安全・安心の医療・介護の実現を求める国会請願署名」の街頭宣伝を行い、約50名の参加で38筆の署名集約に繋がりました。

第1号議案、第2号議案ともに賛成多数で採択され、産別統一スト権は満票で確立、役員選挙は全員が信任されました。

最後に吉田副委員長が閉会の挨拶をし、濱谷委員長の「団結がんばろう」で終了しました。



大会発言の概要(11 組織 20 名より発言)

賃金闘争

賃金闘争については、「道医労連に結集し要求を提出し粘り強く交渉を続けたことで、昼食補助の支給や日曜の当番料の改善などの前進回答があった」、「放射線勤務の明け保障での前進、ベア評価料の対象職種に調理職を含む前進回答があった」、「春闘では定期昇給実施をストライキ回避基準として一部職種や非正規職員のベアを勝ち取り、補助金を活用した要求前進があった」といった発言がありました。

一時金闘争については、「経営悪化を理由に年度末一時金不支給との回答があり、法人からは不支給の法的根拠はないとの回答を受けて、労働委員会への申し立てを進めている」、「夏季一時金が当初予算より 0.5 か月マイナスの 1.0 か月分に引き下げられ、不安や怒りの声が広がった。当初予算に戻すよう粘り強く闘っていく」といった発言がありました。

ストライキについては、「全ての職場から 1 人以上の指名スト配置を目標としたが、全職場での実現には至らなかった。『全面ストを構えなければ意味がない』との意見も出され、今後も議論していく」といった発言がありました。

大幅増員・夜勤改善／働くルールの確立

ケア労働者の大幅増員については、「病棟では認知症の入院患者も多く、職員は奮闘しているものの疲労感が増すばかりで、やりがいを感じられないとの声も出始めており、人員増が強く望まれている」、「介護事業所での人材定着が進まず、夜勤の退勤時間が 2 時間以上延長される事もあり、人手不足解消の具体策を示せと要求して団体交渉で改善を訴えた」といった発言がありました。

夜勤改善については、「夜勤は月 8 回以内と労使で確認している。現場の状況に応じて工夫しているが、半世紀以上前の制度がそのままという問題もあり、夜勤の改善を引き続き求めていく」といった発言がありました。

働くルールの確立については、「医師が育児休暇を取得するなどの変化が見られる一方、看護師では子を産まない選択をせざるを得ないケースや、育児と介護を同時に抱えてるというケースも聞かれる。看護師が選ばない職業とならないよう、働き続けられる環境を整えることが必要」、「職員間で起こるリスクがあるためハラスメント対策は急務。どの場面でも差別を許さない立場を進めてほしい」といった発言がありました。

一方で、「看護師を中心に退職に歯止めがかからない現状から、このままの方針で産別に結集し運動を進めていくことで人員増となるのか、不安を感じている」といった発言がありました。

青年・女性分野

青年・女性分野については、「交流会などに地区協全体で取り組むことができたことと、全国アクトへ参加したこともあり、意欲の向上と横のつながりが強くなったと感じている。現在動いていない自組織での青年部を再開していきたい」、「青年部のアクトに参加し、学習の大事さだけでなく交流を通して仲良くなるのが大切と感じた。青年活動が楽しくて仕事も頑張れる。アクトなどの活動を通して組合のイメージを明るくしていきたい」、「女性部ではヨガ教室、手作りビーズ教室、フラワーアレンジメント、手作りパン教室などの企画から組合加入に繋げている。誕生月に共済パンフレットとクオカードのプレゼントする取り組みも行っている」といった発言がありました。

社会保障大改悪阻止／安心・安全な医療・介護の実現

社会保障大改悪阻止については、「国立病院では人員削減が進められ、医療提供が困難になる地域が出るというリスクがある。これを阻止するための署名が国会で採択された。いざという時に必要な医療が受けられないということがないように奮闘したい」、「病院の経営を守るためにも看護師は100%を超える力で働いている。現状の診療報酬では収益確保が難しく、費用削減するしか方法がない。安定した病院経営とわたしたちの生活を守るためにも診療報酬の引き上げを求める」といった発言がありました。

安心・安全な医療・介護の実現については、「ケア労働者の流出を食い止めなくてはならない一方で、養成校でも定員割れや定員減があり、これからの地域医療に危機を感じている。人材確保には診療報酬と介護報酬の引き上げは必須で、どれだけ引き上げさせるかにもこだわる必要がある」、「非正規職員が継続して働くための環境整備をはじめ多くの課題があり、次の診療報酬改定や補正予算は極めて重要。組合員の声を大切にしていきたい」、「老健が突然閉院することとなり、退職せざるを得なくなった職員が自己都合退職という扱いとなり、不満の声が多く上がった。社会資源である老健の突然の閉鎖に地域からも不満の声が上がった。団体交渉の結果、退職者は会社都合退職の取り扱いになったが、職場討議、団体交渉など通じて原則的な労働組合活動が大事だと感じた」、「新人看護師パワハラ自死事件について、使用者の安全配慮義務違反を争点に裁判中。同じことを繰り返さないため、新人職員が安心して働ける環境づくりのため奮闘している」、「新人看護師の自死事件から12年経った。真実に近づくには当時のことを知る人々からの情報が必要になる。裁判に向けての資金援助が必要となるため、真相究明を求める募金活動と署名にも取り組んでいる」といった発言がありました。

組織拡大、共済推進/平和運動など

組織拡大の取り組みについては、「自組織の介護部会では、介護分野の大変な状況を知ってもらうため道知事や自治体に向けたキャンペーンの具体化を目指している。パート部会では未加入のパート職員に日ごろから積極的に関わるなどで拡大に繋げている。労働組合として大切な取り組みを行っていることを多くの人に知ってもらいたい」、「病院と複数の介護事業所が合わさった支部として活動している。病院から選出された役員が主力であったが、今年度から介護事業所から2人の本部役員を新たに選出し、現場の切実な声を拾うことができるようになった。今後も風通しよく議論ができるよう、対話と繋がりづくりが必要」、「組織拡大については、しっかり分析したうえで非正規の仲間の組織率を引き上げる目標を掲げた。ぜひ他の組織でも拡大目標を持って旺盛に取り組んでほしい」といった発言がありました。

共済推進の取り組みについては、「病院では経営のスリム化がはかられているが、現場ではこれまでと同じ運用を強いられスタッフは疲弊している。状況を改善するために医労連共済と組合加入を呼びかけており、webお茶会などを開催している」、「住宅ローンを検討していた職員がろうきん利用をきっかけに組合加入を決意。医労連共済にもメリットを感じて加入に繋がった。組合加入のメリットをいかに伝えていくかが重要と感じた」といった発言がありました。

平和運動については、「原水禁世界大会に参加した。日本被団協のスピーチの中で『原爆の話をもっとフラックにしてほしい。国は被爆者と正面から向き合わず、当事者への補償もなかったが、それでも諦めずにたたかってきた』との訴えに心を打たれた。悲惨な戦争を経たうえで平和な日常が成り立っている。労働組合も要求を実現するには声を上げ続けることが大切」といった発言がありました。

【2025年度北海道医労連執行委員】

よろしくお願ひします。

(再)	執行委員長	濱谷 和子	北海道勤医協労働組合	
(再)	副執行委員長	黒岩 勉	全医労北海道地方協議会	
(再)	副執行委員長	中野奈緒美	国共病組斗南支部	／道労連執行委員
(再)	副執行委員長	吉田 岳彦	道東勤医協労働組合	／日本医労連中央副執行委員長
(再)	書記長	坂本 論	北海道勤医協労働組合	
(再)	書記次長	宮越 悠介	道北勤医協労働組合	
(再)	書記次長	千葉 裕之	道北勤医協労働組合	／道労連執行委員
(再)	書記次長	三浦 進	道南勤医協労働組合	／日本医労連中央執行委員
(再)	執行委員	小松 幸恵	全医労北海道地方協	
(再)	執行委員	畠山 歩美	全日赤北海道地方協議会	
(再)	執行委員	村下 留美	国共病組札幌医療センター支部	
(再)	執行委員	杉山 裕司	全 JCHO 労組北海道支部	
(再)	執行委員	井上 晃	北海道勤医協労働組合	
(再)	執行委員	川村 寿弘	道南勤医協労働組合	
(再)	執行委員	池田 大輔	十勝勤医協労働組合	
(再)	執行委員	古川 太一	オホーツク勤医協労働組合	
(元)	執行委員	佐賀 梢	北海道医療一般労働組合	
(再)	執行委員	木村 有里	名寄東病院労働組合	
(再)	執行委員	大澤 秀雄	K-ろうそ	
(再)	特別執行委員	黒澤 幸一	北海道勤医協労働組合	／全労連事務局長
(再)	特別執行委員	三上 友衛	北海道勤医協労働組合	／道労連議長
(再)	特別執行委員	松田加寿美	北海道勤医協労働組合	／日本医労連書記次長
(再)	特別執行委員	油石 博敬	道東勤医協労働組合	／日本医労連書記次長
(再)	会計監査	幅田真沙実	恵和会労働組合	
(新)	会計監査	小谷 麻衣	北海道医療一般労働組合	

退任役員

伊藤 賢太 (前執行委員)

富沢麻由子 (前執行委員)

奥田 聡 (前会計監査)

道医労連執行委員としての
活躍お疲れ様でした。
これからもよろしく
お願ひします。